ジョイントゼミ

# ゆるキャラの歴史と課題

179102Y　会田紗瑛

# 目次

- ゆるキャラの歴史
  - “ゆるキャラ”以前
  - ひこにゃんビフォーアフター
  - くまモンとゆるキャラ戦国時代
- 課題
  - 資金
  - “バズリ”の時代
- まとめ

## ゆるキャラの歴史

# 「ゆるキャラ」以前

- マスコットキャラクターと地域のつながり
  - 地方博覧会や国体のマスコット
    →ゆるキャラのはじまり
- 「ゆるキャラ」誕生
  - 00年6月「ユルキャラ民俗学」連載開始

## ゆるキャラの歴史

# ひこにゃん
# ビフォーアフター

- 2007年「国宝・彦根城築城400年祭」のイメージキャラクター
- ブログでの情報発信→ネット上で人気が爆発

- 「ひこにゃんビフォーアフター」
  - ひこにゃん登場後のゆるキャラに対するイメージの変化

## ゆるキャラの歴史

# くまモンと
# ゆるキャラ
# 戦国時代

- 水野学氏が自らデザイン
- KANSAI戦略
  - 大阪で熊本の認知度向上のためのPR活動
  - QRコードの入れた名刺計1万枚を配布
  - 50種類のポスターを駅構内に掲示、
    車両をくまモン一色にする「JRジャック」
  - 話題拡散の段階に応じたPR展開
- 計6600億円 と言われる経済効果
  →ゆるキャラによる地域振興の成功事例
- 全国の自治体でゆるキャラが生み出される
  →ゆるキャラ戦国時代

# 課題

## 資金

- ゆるキャラブームの過熱による関連予算の増加
- ぐんまちゃん（群馬県）
  - 2013年度　イメージアップ費用1,649万円
- さのまる（佐野市）
  - 2020年度　約1200万円
- 小さな自治体であればあるほど負担が大きい
- 多くのゆるキャラは知名度を得ることができず、税金を浪費する存在となってしまっている

## 課題

# “バズリ”の時代

- SNSの発達
  - 誰でも簡単に動画の共有、拡散
- 動画制作→一度作れば永遠に閲覧される可能性があるコストパフォーマンスが高いPR方法
  - 動画共有の文化
  - 俊敏な動きや大きな動きはできない
    →画面ごしで見るのに向いてない

# まとめ

- ゆるキャラグランプリ終了
  - 毎年開催地が変わる
    - 近隣でイベントがない地域も増える
    - 遠く離れた地でPRしても…
- 新型コロナウイルスの流行
  - イベントの中止
  - 活動内容の変更（ふれあいの中止など）

# まとめ

- ゆるキャラはの置かれている環境は意外とシビア
  - 自治体のPR政策の一環
  - 来年から打ち切りという事も当然あり得る
- 着ぐるみの寿命
  - 着ぐるみの寿命が一般的に3～5年
  - まだゆるキャラを続けるのか？
- 多くの不人気ゆるキャラ達がいなくなる

# まとめ

- Q:ゆるキャラはいなくなってしまうのだろうか

  A：そうは思わない

# まとめ

- 生活に根付いたゆるキャラ
  - 看板や名産品のパッケージ
  - 市内を走るバスや緊急車両
  - イベントの縮小・ゆるキャラ自体の人気減退
    - 着ぐるみの姿で実際に現れる事は減る
    - イラストを見かける事はブーム以前より格段に多い状況が続く
- 再び地域のアイコンに戻る